

# 「つや姫」栽培管理情報 第5号

～1.9mm選別ふるい目に対応した米づくりの実践～



平成30年11月30日



30年産つや姫 平年の収量と品質を維持

## 「記録的な暑さ」に耐え、がんばって登熟

今回は、各地域において、本年作の反省会や31年作種子の注文が始まるのにあわせて、県マイスター実証ほの結果や県下の作柄等について皆様へお伝えします。

### 1 マイスター実証ほの結果

#### (1) 収量

- ・収量（平年並み～やや少ない）  
＝穂数（平年並み）×1穂粒数（平年並み）×登熟歩合（平年並み）×千粒重（やや低い）
- ・1.9mm選別歩留まり率は低い

#### (2) 品質

- ・整粒歩合は高い
- ・玄米蛋白質含有率は平年並み

### 2 県東部平坦地（JAしまねのくにびき、やすぎ、いずも、斐川地区本部）の作柄

- ・収量及び1等米比率、また、粗収益の試算では「コシヒカリ」を大きく上回る（図1、2）
- ・検査の格下げ理由は、例年と同様に「整粒不足」と「心白腹白」が大部分を占める

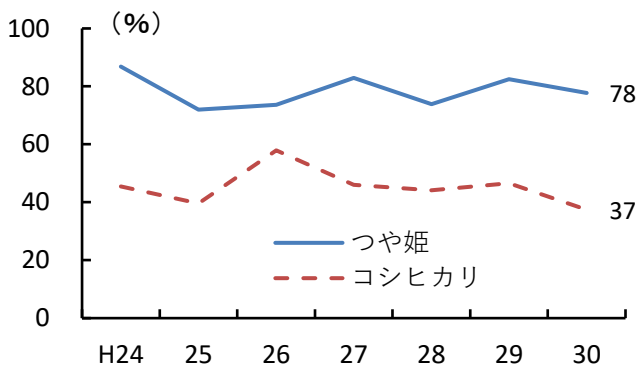


図1 1等米比率の推移

※H24～29年は同年度3/末、H30年は11/1現在

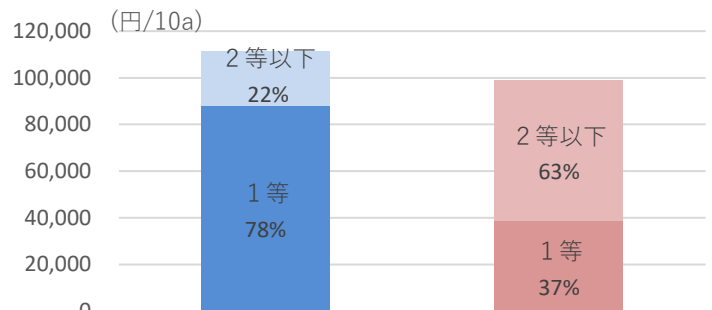


図2 平成30年産米の粗収益試算

※JA買取単価を参考にして試算。「つや姫」の場合、収量510kgの内、1等78%、2等以下22%の試算

本年の登熟期間は、「記録的な暑さ」により白未熟粒が発生しやすい気象となりました。また、この期間を通して少雨であったことは、千粒重や1.9mm歩留率（粒張り）に影響を及ぼしたと考えられます。こうした中、県東部平坦地において平年の収量及び品質を維持できたのは、生育期間を通して病虫害が少なく稲体が健全に生育したこと、中干し等の水管理や肥培管理が生育や土壌実態に応じて実践され適正な粒数（穂数×1穂粒数）が確保されていたこと、少雨の中でも収穫期近くまで保水管理が続けられていたこと等により登熟向上が図られた成果です。

「つや姫」は、奨励品種採用以降作付面積が拡大する中、継続して安定的な収量及び品質を維持しています。また、実需者からの引き合いが強く、依然として供給不足が続いております。

31年作に向けても、各地域において高品質栽培とともに作付推進にご協力ください。

研究トピックス「つや姫」関連試験（作物科）の結果速報一

1 深水による生育制御関係試験

1) 試験条件

播種 4/6 移植 5/2 (株間 18cm1 株植付苗数 3 本) 基肥窒素成分 5kg/10a 「つや姫専用一発」を全層施用  
追肥窒素成分 1.5kg/10a 出穂 25 日前(7/2)に「満点有機 067」10kg/10a 施用

深水区：深水期間 6/6(+35)～6/18(+47) 中干し：6/18～6/23 対照区：中干し 6/8～6/15

幼穂形成期 7/2 出穂期：7/24 成熟期：8/23

表 1 深水栽培における「つや姫」の収量構成要素

試験区	最高	穂数	籾数		登熟 <sup>1)</sup>	玄米 <sup>2)</sup>	収量 <sup>3)</sup>	減収率
	茎数		(粒/穂)	(粒/㎡)	歩合	千粒重		
	(本/㎡)	(本/㎡)	(粒/穂)	(粒/㎡)	(%)	(g)	(kg/10a)	(%)
対照区	611	463	70	32,311	82.9	22.8	608	3.4
深水区	532	420	73	30,648	85.4	23.1	603	3.1

1)2)3)は1.9mm選別の数値

2) 結果 深水区の最高茎数は有意に少なく、穂数はやや少なく、1穂籾数はやや多く、登熟歩合はやや高く、玄米千粒重は有意に向上した。

2 「つや姫」の最適移植時期の検討

1) 試験条件

移植 手植 株間 18cm 1 株苗数 3 本 基肥窒素成分 5kg/10a 「つや姫専用一発」を全層施用

5/ 1 移植：播種 4/ 6 (加温) 幼穂形成期 7/2 出穂期：7/23 成熟期：8/23

5/15 移植：播種 4/24 (加温) 幼穂形成期 7/6 出穂期：7/29 成熟期：8/29

5/31 移植：播種 5/11 (平置) 幼穂形成期 7/13 出穂期：8/5 成熟期：9/11

表 2 移植時期別の「つや姫」の収量構成要素、外観品質および食味

移植期	最高	穂数	有効茎歩合	籾数		登熟 <sup>1)</sup>	玄米 <sup>2)</sup>	収量 <sup>3)</sup>	減収率	整粒比率 <sup>4)</sup>	タンパク <sup>5)</sup>
	茎数			(粒/穂)	(粒/㎡)	歩合	千粒重				
	(本/㎡)	(本/㎡)	(%)	(粒/穂)	(粒/㎡)	(%)	(g)	(kg/10a)	(%)	(%)	(%)
5/1	648	438	68	61	26,749	87.9	22.3	524	2.0	72.2	6.8
5/15	712	465	65	65	30,244	84.9	22.5	578	4.3	88.7	6.9
5/31	404	357	88	95	33,736	73.2	22.0	542	7.1	89.0	7.5

1)2)3)4)5)は1.9mm選別の数値

2) 結果 5/31 移植の有効茎歩合は高く、1穂籾数が多く、登熟歩合は低く、玄米千粒重が軽く、玄米タンパクが高かったが、整粒比率は極めて高かった。5/15 移植の収量が最も高く、整粒比率も良好で玄米タンパクも適正範囲であった。

全国における「つや姫」の検査状況

全国的に、検査結果は良好のようです。

表 平成30年産「つや姫」の農産物検査結果(平成30年10月31日現在) (単位:トン、%)

産地	総計	等級比率				規格外	参)H29 総計
		1等	2等	3等	規格外		
宮城	14,015	95.1	4.6	0.1	0.2	17,928	
山形	30,073	97.3	2.6	0.1	0.0	48,106	
岐阜	1	-	-	-	100.0		
和歌山	56	20.0	78.2	-	1.9		
島根	3,462	76.7	21.6	1.6	0.1	4,738	
長崎	857	98.3	1.5	0.2	-	944	
大分	2,269	72.8	26.0	1.0	0.2	2,515	
宮崎	54	89.7	10.3	-	-	43	
小計	50,787	94.1	5.5	0.2	0.1	74,274	

※農林水産省「平成30年産米の農産物検査結果(速報値)」(平成30年11月30日公表)